

マーケットの動き (2020年1月13日～1月17日)

先週の米国国債の金利は横ばい、ドイツ国債の金利は低下しました（債券価格は上昇）。

1月10日の米国雇用統計を受け金利は低下基調で推移しましたが、発表された米国経済指標が総じて良好であったことを受け、反発しました。しかし米中貿易協議の合意内容もおおむね事前通りであったため、市場への影響は限定的でした。

投資環境見通し (2020年1月)

米国、欧州ともに、長期金利は金融政策の据え置き見通しからレンジ内での動き

米国：FRB（米連邦準備制度理事会）は、足元の経済指標が強弱まちまちの中、インフレ率の上振れを許容しつつ、現行の金融政策を継続するものとみられます。こうした状況下で長期金利は当面レンジ内で推移するとみています。

欧州：長期金利は当面レンジ内で推移するとみています。

	1月17日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	1.83	0.01	▲0.05	▲0.23	▲0.91
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	474.85	0.53%	0.50%	3.37%	7.53%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

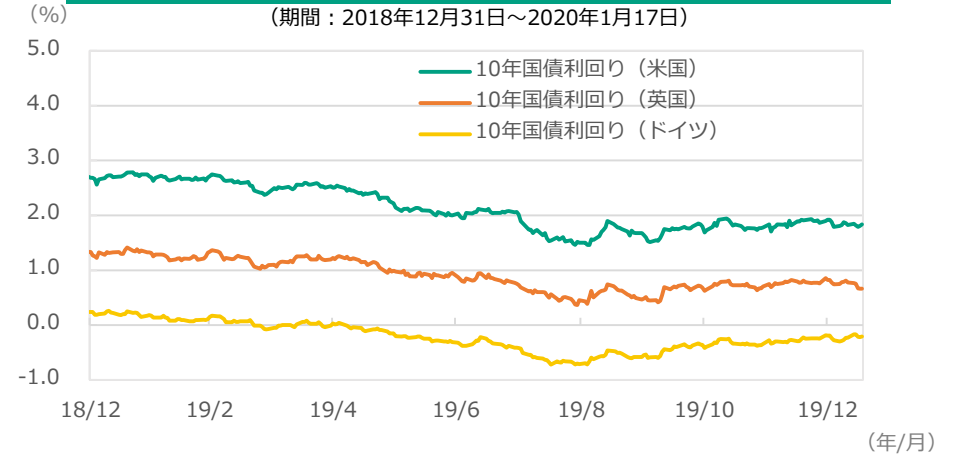
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202001_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2018年12月31日～2020年1月17日）



FTSE世界国債指数の推移

（期間：2018年12月31日～2020年1月17日）



※2018年12月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成